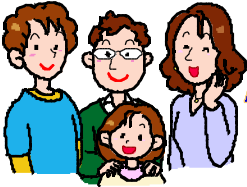


図書だより

国見小学校図書館教育部
H28, 9, 9 NO. 5



「家読」いかがでしたか？

2学期が始まり、2週間がたちました。夏休み前に貸し出した本の返却も終わり、図書の貸し出しを再開したところです。

夏休みには、たくさんのご家庭で家読に取り組んでいただき、ありがとうございました。提出された家読カードからは、家読が定着してきている様子、お子さんの発達段階に合わせて本を選んでいる様子が伝わってきました。お子さんの成長に合わせて読書の幅が広がっていくのはうれしいことです。

下記に、8名のみなさんの家読カードを紹介します。また、学級代表者の家読カードを2階東廊下に掲示しますので、授業参観の際に、ぜひ、ご覧ください。

「ひみつのきもちぎんこう」 1年男子

<自分>

きもちのぎんこうがあることがびっくりした。さいごにやさしくなってよかった。

<おかあさん>

銀行の通帳のように、よい気持ちも悪い気持ちもどれくらい貯まっているのかを目で見るのができたなら、自分の言動を振り返ることが簡単にできるかもしれません。心の中に自分だけの「きもちぎんこう」を持っていられたらいいなと思いました。



「カホのいれかわり大パニック」

5年女子



<自分>

逆上がりができなくて自信をなくしたカホは「自分が逆上がりなんかできるわけない」と思っているんだなと思いました。できないと思うとできないので、「できる!」と思って何でも取り組みたいです。

<母>

私もカホみたいに、逆上がりできないし明るい女の子のグループには入れない小学生だったなあ。でも、カゲポンも自分の一部、きっと何でもチャレンジが大事!と思いました。

<父>

「どうせ、あたしなんか」から「カゲポンみたいにめげずにやるぞ」へ変わったカホ。何でもいい方へ考える積極的な見方でやるのが大事だと思いました。

「ふしぎなおうちはドキドキなのだ」

2年女子



<自分>

マサヒコくんは、ばあちゃんの家をこわいと思っているのであって、ほんとはこわくないと思うので、わたしもやればできると思いました。

<兄>

ドアを開けたとたんに犬が急にほえてくるところがびっくりしました。まほう使いはこわいんだと思いました。

<母>

ドキドキしながらもおばあちゃん家に行くのが少し楽しみになってきたんだなあと思いました。だって最後にはおばあちゃんに「ありがとう」という気持ちになれたんだもんね。

<ばあちゃん>

魔法使いのお話と思いきや、孫とおばあちゃんのお話。しかも、書いた方が孫のお習字の先生と姪の名前を合わせたお名前。はたまた1959年お生まれの方で親近感を覚えました。絵のタッチも心地よく不思議を残したおしまい最高です。

<じいちゃん>

人生長いんだから楽に考えないとやっていけない。何事も気の持ちよう。何だってこわいと思うからこわい。こわくないと思えばこわくない。

「きつときみにとどくと信じて」

6年女子



<自分>

海がすなおな子で、読んでいてほっこりした。・・・と思ったら、意外に重かった。

<母>

いじめる側もいじめられる側も何らかの“心のやみ”があります。この本を読んで、どんなことでも話し合える親子関係でいたいと思いました。

「げんばくの火」
3年男子



<自分>

山本さんは、たくさんの人を守ってすごかったです。ぼくもそんなことがあったら、たくさんすくってあげたいです。

<母>

広島に原爆が落とされたことを忘れないようにしなければならないと思わせる内容でした。今でも星野村で山本さんが守り続けていた「原爆の火」が灯されています。もっと多くの人に知ってほしいです。

<父>

「原爆の火」を守ることで、多くの人々が亡くなった「戦争」を忘れず、いつの時代も考え続けること。それが“今”を生きる人々の役目なのではと、思わせる内容でした。

<兄>

戦争をやってはいけないということが具体的に分かる内容で、そのことがどんどん後の世代の人に伝わっていけばいいと思いました。

「目がみえない耳もきこえない
でもぼくらはわらってる」

4年男子

<自分>

この本を読んで、しょうがいしゃの人たちに感動しました。なぜかという、しょうがいを持っていてもあきらめなかったからです。

<姉>

障害を持っていてもあきらめず、一生懸命な姿に感動しました。

<兄>

洋平くんは生きているということに喜びを感じているところに、とても感動しました。

<姉>

からだが不自由でもこんなに頑張っている人がいるということ、それを支える温かい人達がいるということ。

私達もそうありたい
と思いました。



「おかあちゃんがつくったる」

6年女子

<自分>

男の子はお父さんがいなく、お母さんはミシンを使うお仕事をしていて、運動着やカバンなども「おかあさんがつくったる」といって何でも作ってきた。ある日、父親参観があって、お父さんが着るようなスーツを着たお母さんが男の子の机まで来て、「これ、ミシンでつくってん」と言った。

とても元気が出るカワイイ絵で描いてあって、私も服やカバンなど作ってといったら、「おかあちゃんがつくったる」といってほしいなと思いました。とても心がほかほかするいい話でした。

<母>

母は強し！！愛情たっぷりの子育てが胸に響きました。



「ごめんねともだち」

1年男子

<自分>

ごめんねっていうのがだいじだとおもいました。

<ママ>

ごめんねは誰にでも言えるかんたんな言葉だけど、なかなか言えないときもあります。でもその一言が笑顔をつくるんだなと思いました。

<パパ>

ケンカした時など、ごめんねの一言で笑顔になり、その一言がないと笑顔はなくなります。ごめんねの一言は大事だと思いました。



2学期も、4~6のつく日を中心に家読をすすめていきましょう！

次回の家読カードは、10月に実家庭配付の予定です。